

## 第27回区民車座集会意見交換内容（宮前区）

- 1 開催日時 平成28年12月11日（日） 午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 宮前区役所 4階大会議室
- 3 参加者等 参加者28名（宮前子ども会議）、傍聴者約20名 合計48名

### <開会>

司会：皆様、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから第27回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます宮前区役所企画課の古泉と申します。よろしくお願いいたします。

本日の車座集会ですが、宮前区の28名の子供たちが参加し、「こういう未来に生きていきたい」というテーマで開催します。

それでは、まず、行政からの出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：野本紀子宮前区長でございます。

宮前区長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、福田市長から一言御挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

### <市長挨拶>

市長：改めまして、皆さんこんにちは。

今日は、区民車座集会の27回目になります。毎月1回各区を回っていきまして、もう4巡目になるんですけども、4巡目は結構若者の皆さんと一緒にディスカッションすることが多くて、先月は多摩区で大学生と、その前の月は高津区で高校生ということで、今回初めて中学生と、今日は小学生の皆さんもいらっしゃるということで、とても楽しみにしています。

特に、これから未来に、どんなまちに住んでいきたいかということのをテーマに、子ども会議のところで話し合ってくれたということで、皆さんとのディスカッションをとても楽しみにしています。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

### <意見交換>

司会：ありがとうございました。

今日、参加する小学校5年生から中学生までの28人の皆さんは、午前中に開催された宮前子ども会議で六つのグループに分かれて議論してきました。これから、早速、その内容を発表させていただきます。

子ども会議のファシリテーターを務めていただいた青山さんにも、午前中の様子などを御紹介いただきながら、各グループの発表をお願いしたいと思います。

それでは、皆さん、よろしくお願いいたします。

青山さん：御案内いただきました午前中、午後からも車座集会のほうに参加された皆さん、傍聴の皆さんもいらっしやいますので、午前中の少し様子をお伝えして、そしてそれから6グループ、今、こちらに1グループ目がアヤタカさん、グリーンドラえもんズ、タマゴさん、オムライスさん、何でここでさんが入るかちょっとわからないですね、語呂なんですけどね、あんぱんまんさん、たけのこさん、この六つのグループになっていますので、それぞれ発表していただきます。

今日、川崎市が「多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。」というポスター、5種類貼りましたが、子供たちにちょっと伝えたかったのは、こちらの3番目の保育園のポスターですね。これが、子供たちが描く夢はまちの未来になる。まさに、今日のタイトルに非常にふさわしいんじゃないかなと、すごく共感を呼ぶんじゃないかな。子供たちが未来に、こういう未来に生きていきたいんだと、それが10年後、20年後、もっと未来かもしれない、もっと違う場所かもしれない、でも、こういう未来に生きていきたいということの願いを、子供たちが午前中、まとめましたので、それをこれから順番に発表しながら、中身的には福田市長さんへの提案事項もあるかもしれませんが、お聞きいただきたいと思います。

それでは、1番目、アヤタカさんです。よろしくお祈いします。

時間は、各グループ6分間になっておりまして、市長さんのコメントがその後の3分間を予定しております。

それでは、よろしくお祈いします。どうぞ。

アヤタカ：僕たちは、よりよい生活をしていくために、今、起こっている問題を改善していくことが大切だと思いました。主に、環境、政治、近代化について考えました。

まずは環境です。環境では、主に、自然問題について考えました。5年以内に解決されそうな問題は、石油を減らすことです。石油を減らすことを解決するためには、自然エネルギーの発達をすることが大切だと思います。

次に、10年以内に解決されそうな問題についてです。それは森林の減少です。森林の減少を改善していくためには、深刻なら法令、また、樹齢が長い木を育てる、道路の端に木を増やすなど問題の改善が考えられます。

さらに、15年以降に改善されると思われる問題についてです。それは、原発の問題です。原発の問題を改善するためには、政治との連携が大切だと思います。

また、地球温暖化については、森林の増加をすることにより、改善されると思っています。

次に、政治です。

アヤタカ：政治では、自分たちは余力にはなれないですが、この部分はお祈いとして発表させていただきます。政治では、5年後にできそうなことだと、憲法改正やオリンピックの会場問題などです。

次に、10年後にできることは、自民党・公明党に、強く、強行採決と、沖縄米軍基地の問題についてです。自民党・公明党強行採決については、みんなへの情報発信が必要だと考えられています。沖縄米軍基地の問題については、沖縄住民などの意見交換を大切にすべきだと考えています。

15年後にできると思われていることは、原発の立て直しが優先なことです。その方法は、国民の意見を第一に優先させることで、原発の再稼働は、先ほど言った自民党・公明党の強行採決につながっています。これを全て含めると、政治への平等さを求めることが大切だと考えました。

次に、近代化についてです。5年後にできることは、学区内にある道路の端にある緑色ラインの増加についてです。これをするすることで、近代化が進み、世界全体が便利になるということです。この問題についての答えは、自分たちが関心を持つことと、もっと増やしてもらえるようにすることをお祈いします。

次に、10年後にできることについてです。ロボットで行う問題が、ロボットで行う生産と車の自動運転

の開発、電気・水素自動車の開発についてです。ロボットで行う生産については、安全性、コストの最低減についてと、全てを含めると実用性があることを求めています。

15年後に発生すると思われる問題は、鉱山の減少、ネットワークの発達についてです。鉱山の減少については、無駄遣いをしない、化学で鉱山物をつくる、深刻なら、法令を使うということが考えられました。ネットワークについての発達についてです。安全性を重視してほしいということと、ネットでのいじめは、制限をかけるなどの意見がありました。

近代化については、さまざまな面での安全性を求めるようにお願いします。

次は、個人の意見です。

アヤタカ：私は、近代化の学区内にある道路の緑色ラインのことにしてお話したいと思います。私の通っている中学校の学区内には緑色のラインがあって、そこを通ると歩行者も安全に登校できるよという、そういう印があるんですけども、さらに最近では、ライトのほうをLEDライトに変えて、なるべく省エネをしようという、そういう取り組みがされているんですけども、これを川崎市内全体で行えるようにしたら、もっとよりよい学校づくりがしていけるのかなというふうに思いました。以上です。

アヤタカ：私のほうからは、政治についてなんですけれども、政治では主に時事問題について言ったんですけども、自民党・公明党での話で、強行採決と呼ばれる、3分の2が自民党と公明党が占めているので、民進党の意見などは余り採用されていなかったり、逆に自民党・公明党が言っていることがそのまま実現になってしまうので、そういうところで私は余り、憲法の改正やいろいろな問題があるんですけど、そういう問題は、余り私からしては、今のままでいいというのが私の意見なので、やはりそこで反対をしている民進党などの意見が通らないと思われまして、国民の意見が通らないというのが、何にしろちょっと嫌なので、次の議席を決めるには、3分の2が自民党や公明党に取られないということをするためには、私たちも声かけをしようと思うんですけど、何か具体的にこれについて、市長さんはどう思っているかというのを後で回答で聞きたいです。

アヤタカ：私の夢は、キャビンアテンダントさんになることなんですけれども、飛行機に乗るということは、やっぱり事件とかが起きると怖かったりするんで、そうやって飛行機に乗るときなどのテロ事件や、そういう危ない事件などを減らすようなことに取り組んでもらいたくて、私が一人で飛行機に乗ったときも、そういう不安ばかりがあって、やっぱりお客さんもそういう気持ちがあるのではないかと思うので、飛行機に乗る人などの検査などをしっかりしてもらいたいと思います。

アヤタカ：最後にまとめです。

アヤタカ：失礼しました。僕からの意見では、環境についてで、最近、森林減少や環境汚染によって、中国ではPM2.5などで人々が苦しむようなことがあったので、日本でも、もう少しエコについての技術が日本はたくさんあるので、それをもう少し世界に発信していくと、日本だけじゃなく世界でも、まだ安全に暮らしていける人々が増えると思うので、さらに今の技術を発展させて、人々がさらに安全に暮らしていけるようにしてほしいです。

司会：すみません、時間が少しになったので、そろそろまとめてもらえますか。

アヤタカ：最後にまとめです。今まで環境汚染や自民党・公明党の強行採決、ネットワークの発達などの多

くの改善をしてほしいことがありましたが、環境、政治、近代化を含めて、安心・安全の未来を築いていけたらいいなと思います。

これで、僕らの発表を終わります。

市長：アヤタカさん、どうもありがとうございました。さっきの模造紙のところに書いてあった一番下のところ、自分たちが関心を持つというふうなところが、このエネルギーの環境問題もそうだし、あるいは政治のこともそうだし、とても大事なことだと思っています。

この関心をまず持つ。

まず、一つずつ言ってみようか、環境問題、今年、重要な国際会議があったのを知っていますか。COP 22、パリ協定というふうなものです。これ、世界でCO<sub>2</sub>を削減していきましょうねという約束をしたものですが、これ、誰かがやるんじゃない、自分たちがやらないといけませんね。

こういった、例えば原発の話が出ましたけども、原発のエネルギーを選んでいるのも私たち消費者です。さっき、政治も政党の話も出てきたけども、この話も選んだのは誰でしょうか、私たちは有権者です。まだみんなは、18歳になったら選挙権があるけども、みんなの一つのルールに基づいて決めてきたことですね。ですから、みんなが関心を持って、そして行動に移すということがとても大事です。

ですから、エネルギーも、どういう発生源のエネルギーを買うかというのは、これは消費者が決めるんです。ですから、原発が嫌だというふうな方は、原発ではないエネルギーを買う選択肢がこれから出てきました。グリーン電力を買おうというふうなものが出てきましたね。

こういった消費者が最終的に決めると、今までは生産者というエネルギーをつくっている人たちがどんなエネルギーを供給するかというのを決めてきましたけども、だんだん今、こういったエネルギーを消費者が求めているかなというふうなことで決められる、そういう時代になってきました。

今、川崎市は、港の近くで臨海部と言われるところで、何と700万キロワットのエネルギーをつくっています。これ、700万キロワットってどのぐらいかという、1都3県の人口、今、1都3県はどれぐらいいると思う？ 約3,500万人です。3,500万人の家庭用電力を全て賄える電力が大体700万キロワット、これを全て川崎でつくっています。知っていた？

原子力発電所はありませんけども、火力、風力、太陽光、バイオマス、こういったエネルギーでもってつくり出しているという、とっても、首都圏で最大のエネルギー基地がこの川崎なんです。

これからどんなエネルギーを選択していくかというの、皆さんの、私たちもそうだし、皆さんの消費者がどういうエネルギーを選ぶかによって変わってくると、だから関心を持たなくちゃいけないですよということだと思っています。

それから、LEDの話が出ましたね、LEDは今年、今、川崎市でやっていますけども、全ての街路灯（※注1）をLED化するために今、順次工事を進めているところです。そういうふうなことをやって、なるべく低炭素な社会に持っていこうということです。今、世界は、低炭素と今までずっと言ってきましたけども、いよいよ脱炭素になってきました。低炭素じゃないんですよ、脱炭素、要するにゼロにしていこうという、そういう取り組みが今、国のほうでは動き出しました。世界で動いています。まだ、日本は取り組みが遅いほうですね。（※注1）正しくは、ほぼ全ての防犯灯です。

それは、何でしょう、先ほどから言っている消費者、僕たちがどういう生活をするかに関わってきますから、ぜひ皆さんの行動も、日々の生活の中で改めてもらいたいと思います。水の出し過ぎをしていませんか、電力の、自分がいないところで電気を使いまくっていませんか、ドライヤーの時間は大丈夫でしょうか、ぜひ考えてみてもらいたいなと思います。

それから、さっき3分の2の議席の話がありましたね。これも、民主主義は今もそうですけども、ルールに基づいて全ては決まっています。ですから、選挙で政党に選ばれた今、議席です。何か自分の意見が違う

というふうなのであれば、それは民主主義のルールに則って、違う、いろんな政党がありますから、自分の考えている政党に投票すると、それで物事を決めていかなければ。いろんな人たちがいます。いろんな考え方を持っている人たちがですね、それがいいことです。一つだけという考えはないですね。ここにみんな30人ぐらいいけば、30人30通りの考え方があるという。

だけど、それでは物事が前に進まないから、グループをつくって、じゃあ、どういうふうにやっていこうかということですね。でも、大事なことは、少数の権利ということを、意見というものをしっかり取り入れた中で、しっかりと物事を決めていかないと、うまいふうには進んでいきませんよね。

こういうふうな民主主義のルールに基づいてやっているけども、自分の意見を、関心を持って表明して行動に移していくということは、とてもそれぞれのことに大事だと思います。皆さんも、18歳はもうすぐですから、18歳になったときに自分の考え方をしっかりと自分の行動に移せるように、そして、そういう仲間とこういった問題も話すということはとても大事な事なんじゃないかなというふうに思います。

それから、PM2.5の話が出ました。PM2.5、川崎は環境技術がすごくあります。今年、川崎市と姉妹都市である中国の瀋陽市、瀋陽市も昔の川崎と同じように、煙が物すごく、もくもく出ている重化学工業地帯です。そこからPM2.5も降っていると、偏西風に乗って寄ってくるということでもありますから、実は日本で初めて都市間連携というのを瀋陽市とやることになりました、今年から。

何をするかというと、PM2.5の研究を一緒にやりましょう。実は、川崎の技術はとても進んでいるので、瀋陽市と一緒にPM2.5の研究をやって、瀋陽市が出さなくなれば、みんなが困らないと、瀋陽市の人も、中国の人たちも困らないけども、ひいては私たちも困らない。空も海もみんなつながっていますからね。

そういう意味で、都市間連携、今やっているところです。そんな取り組みもやっています。

以上です。ありがとうございます。

司会：それでは、次のグループ、用意をお願いします。

グリーンドラえもんズ：グリーンドラえもんズの発表を始めます。

私たちは、よりよい環境の中で、生きていきたいと思っています。

まず最初に、学力が低いということです。学力が低いというのは、わからないことがあると嫌になってしまう勉強があったり、テストがないと勉強しないなどの人が多いので、学力が低いと思います。そのために、学校対抗でクイズ大会をしたり、勉強の環境づくりをしたいと思います。クイズ大会というのは、小・中学校の地域ごとでいろいろなジャンルのクイズを出し、競い合うというクイズ大会です。また、環境づくりというのは、わからないところなどを中学生や高校生などで、自分たちよりも上の先輩たちに教えてもらえる場所をつくり、それで勉強をわからせることのできる場所をつくりたいということです。

グリーンドラえもんズ：次に、自然についてです。今、自然の中で問題になっているのは地球温暖化です。地球温暖化は、車の排気ガスや工場から出た空気、空気が汚染されて、二酸化炭素が増えて温暖化につながってしまう現象のことです。それを改善するために、まず、環境のよい発電、これは太陽光や風力発電などや、僕たちが考えたのは、体育館や運動場に走ったら充電される発電機を使い発電するなどの取り組みをして、環境によりよい発電をし、地球温暖化につながらないような取り組みをしたほうがいいと思います。

また、緑を増やすとありますが、道路の脇などに木を増やしたり、ビルの上に栽培場をつくらしたり、緑のカーテンなどをつくり、人々がいいなと思える環境づくりに努めたいと思います。

次に、暮らしについてです。住みにくいとありますが、いろいろな施設が整っていないかったり、余り地域との交流が少ない生活をしている人も多いと思います。それを改善するためには、まず、地域などと交流を

して、祭りや行事を増やしたりし、さまざまなことに地域の人が参加できるような機会を生み出したらいいと思います。

また、好きなことができる場所とありますが、一人一人の個性を活かし、趣味などを発表できる場をつくり、自分とのつながりを増やせる機会を増やしたらよくなると思います。

次に、施設の整備です。今、公園などがありますが、公園でボールが使えない公園や、周りに住宅街があり、余り大きな音を出せない場所が多いです。そのために、もっとボール専用の公園をつくったり、もっと広々としたところや、ネットをつけて、もっと子供たちが遊びやすく運動しやすい環境づくりをしたらいいと思います。

また、施設の整備は、病院などが少なかったりする場所もあるので、一つの病院に偏らないように、いろんな場所に設置したらいいと思います。

このように、いろいろな改善点はありますが、すぐ、明日からでもできることはいっぱいあります。なので、皆さんも心がけてみてください。

これで終わります。

市長：グリーンドラえもんズさん、名前がいいですね。ありがとうございました。

まず、そうですね、学校の学力の問題です。今、取り組んでいることが一つありまして、皆さんに御紹介したいんですが、算数、数学って一回わからなくなると、物すごくわからなくなり続けると思わない？ 実は、私もそういう経験があります。算数が苦手だったんで、そのまま数学も苦手になりました。こういう経験をしている人って、とっても多いと思います。

それで、川崎区の学校で、ちょっとモデルで始めたんです。中学校2年1組と2組、この二つのクラスをA班、B班に分けます、同じ数学の時間。すごくわかっている子、1組のほうに移動してくださいと、2組の人たちも含めてですね。今、この辺の基礎的なところをよくわかっている、物すごくよくわかっているという子、自信がある子は2組のほうに移ってくださいというふうに分けます。これは先生が分けるわけじゃありません。自分がわかるというふうに自信がある子は2組のまま、ちょっと自信ないと思ったら1組のほうに移動してくださいというふうに分けます。

勉強しているページは、同じ、今日は16ページから18ページまでやりますよといったら、1組も2組もこの16ページから18ページ、同じ教科書を使って同じページを勉強します。何が違うかといったら教え方が違うんです。というふうな取り組みを、もっとわかりやすく、基礎的なところをもうちょっと勉強したいなという子は1組に行って勉強してもらおうと。これがずっと固定化するわけじゃありません。あつ、私、自信ができた、自信があるといったら2組のほうにいつでも移動できるという、こういう形というふうなのを川崎区で始めて、モデル事業を去年までやってきました。今年は、川崎区内の中学校全てでその取り組みをやっています。

今までわかんなくて寝ちゃってた子、もうつまんない、授業、これを聞いても、算数とか数学って、一回つまずくと、その次はもうわかんないから、どうしようもないよね。そういうふうなことにならないように、ちゃんと授業がわかるというところまで定着させると。そうすることによって、あつ、自分もできるんだというふうなことを感じて、生活態度も改まると。授業がつまんないと、わからないとつまらないから、何か授業も寝ちゃうし、もう学校生活が嫌になっちゃうね。

そういうことがないように、そういう取り組みを今、川崎区で始めて、これを将来的に川崎市全域でそういうことをやっていこうというふうに思っています。それを今は川崎市の教育委員会の皆さんと議論をして、こういう成果が出てきましたよね、学校の先生も、なかなかこれ、わかる授業だけじゃない、生活態度にも随分効果があるなということで、今、そんな効果も出てきているので、そういう取り組みも大事なかなというふうに思っています。

それから、地球温暖化対策の話も出ましたね、あるいは公園の話も出ました。公園の話も去年、一昨年です、僕は市長への手紙というコーナーで、小学校3年生の子供から市長への手紙をもらいました。「市長さん、私は野球をやりたい、サッカーをやりたいんだけど、ボールで遊べる場所がありません。どこに行ってもボール遊びはダメと書いてある、どこに行ったらいいですか、近くの場所を探してください。」ということで、返事を書きました。残念ながら、その近くで思いっきりボールで遊べる公園というのは、そんなに多くなかった。400メートルぐらい離れた公園まで、御紹介するしかなかったんですね。

しかし、そんな遠くでは、毎日遊びに行けませんということでした。そこから、今年は各区1カ所ずつ（※注2）モデル的に公園で取り組んでいることがあります。それは、ボール遊びをしたい子がいますよね。例えば、サッカーボールで思いっきり蹴りたいといっても、隣に赤ちゃんを抱えたお父さん、お母さんがいたらどうだろうか。あるいは足の悪い、あるいは高齢でちょっとゆっくりしたいと、ベンチに座っているんだけど、かたいボールがぼんぼん飛んでくる、ちょっと怖いと思う方が一緒に公園の中には存在しています。

そういったときに、はい、ボールはダメ、あるいは、すみません、高齢の方は御遠慮ください、こんな公園、誰が楽しいですかね。みんなが楽しい公園って、自分たちでルールをつくりましょうよと。そこを使う公園の人たち同士で、みんなが、子供さんから、赤ちゃんは自分のことを主張できないからお母さん、お父さんが代弁者になって、あるいは高齢や障がいを持っている方も、みんなで集まってどういう公園の利用というのがみんなにとってハッピーなんだろうねという、そういうルールづくりを自分たちでやっているよという取り組みを各区1カ所ずつ（※注2）、まず始めました。（※注2）正しくは、市内3カ所です。

それでもって、一つの自分たちのルールづくりをやっていて、やりましょうと。幸いなことに、ボール遊びをしたい人と、赤ちゃんを抱えているお母さんと、少しずつ利用の時間帯というのはちょっとずつ異なっている場合というのがあります。そういうところをうまく工夫しましょうねということは今やっていて、他のところにも広がればいいなと思っています。

何しろ、やっぱり誰かが決めてくれるんじゃない。例えば、市役所、区役所が、はい、すみません、ボールは1時から3時までにしてください。それ以上はやっちゃダメとというふうに言われたら、それは腹が立つよね。そうじゃなくて、自分たちの利用者の中で決めていくという、そういうルールづくりが僕は必要だと思っています。そんなことを取り組み始めています。

それから、緑も増やす。とても大事です。宮前区はまだ緑が多いところのほうですけども、川崎市には、まだ緑が少ないところもたくさんあります。あるいは、今、緑があっても実はすごく問題なのは、僕のところにもたくさん来ます。この秋の、もう冬になってきていますが、秋の落ち葉の季節、落ち葉が大変だから、枝を物すごい勢いで切ってくれと、あんなの邪魔だと、だからもう、はげ山にするぐらい全部木を切ってほしいという方と、いやいや、落ち葉も含めて季節の味わいなんだよ、それが自然なんだよという方の、合意が物すごく難しいです。みんな、どちらだと思う？

落ち葉があっても、大変けども、それは切らないほうが良いと思う人。（挙手）

切っちゃったほうが良いと思う人。（挙手）

ちょっと僕の今の質問の設定が乱暴だったかもしれません。すごく乱暴だったかもしれませんが、しかし、みんなが毎日、家の前がそんなに落ち葉で自分が片づける役割の人だったらどうだろう。毎日、掃除してください。そう言われたらどう思う。

毎日、掃除してもいいと思う人、それでも木を切らないでと思う人。（挙手）

意外というね。すばらしいですね。こういうふうにみんなが思ってくれば、意外とそうならないのかもしれないけども、実は、こんなことにも住民同士の対立といったらあれですけど、意見の違いがあるんです。ですから、それを合意形成するためには、やっぱり誰かがどこかで落ち葉を拾う役をやらなくちゃいけないとか、そういう人がいない限り、この議論って成り立たないんですよ。

ですから、こういうことも大事、みんなの意見を聞きながら調整していくということがとても大事だと思

います。誰かがどこかで決めて、ばしっと切ってしまうというふうなことがなるべくないようにしていきたいなというふうに思っています。

施設整備あるいは交流の話が出ました。今、老人いこいの家と、こども文化センターがありますね。あそこ、宮前区内には合築のところって幾つかありますか。

宮前区長：はい。

市長：ありますね。どこですかね。

宮前区長：鷺ヶ峰。（※注3）正しくは、野川、有馬、平、白幡台です。

市長：鷺ヶ峰もそうですか。幾つかですね、宮前区内にも老人いこいの家と、こ文と一緒にいる、1階、2階に分かれているところがあります。実は、あれ、ちょっともったいないなと思っているんですよね。子供は子供、大人は大人、1階と2階で分断されて交流がない。これは物すごくもったいないと思います。

そういうのを、もう少し、二つの施設が一緒になっているんだから、もっと交流しましょうよというふうに、夕方になったら老人いこいの家は閉まっちゃいます。閉まっちゃう、もったいないね。あそこ、子供がもう少し遊べたらいいんじゃないかなと、夕方以降、というふうに思います。

こういうふうに、二つの施設をもう少し有効にすれば、子供も大人もその施設、建物、もっと交流できるんじゃないのかなというふうに思いますし、今、地域の寺子屋というのを始めています。こういった地域の寺子屋で、自分のおじいちゃん、おばあちゃん…、おじいちゃん、おばあちゃんが近くに住んでいる子、どのぐらいいる。（挙手）

4分の1ぐらいかな、3分の1いないぐらいかな、だと思います。ですから、3分の2ぐらいの、今、みんなは、近くにおじいちゃん、おばあちゃんがないから、でも、地域のおじいちゃん、おばあちゃんは大くさんいらっしゃるんですよね。こういう人たちと自分の親や、あるいは先生以外の大人たちと、もっと意見交換をしてほしいし、地域の中で交流してもらいたいというふうな取り組みを今、やっているところです。

ぜひ、そんなことも、僕はいいかなと思っているんだけど、でも、みんなはどうだろう。みんなの声もぜひ聞かせてもらいたいし、やっぱりみんなも当事者なんだよね。こども文化センターを使ったことある、みんないると思うけども、こういった公園もそうだし、文化施設もそうだし、こういった利用者の声というふうなのは、何も大人だけが決めるものじゃない、皆さんが、子供さんたちも利用者、当事者なんだから、ぜひ、声を出してもらいたいなというふうに思っています。

御提案、ありがとうございました。

司会：それでは、次のチーム、準備、お願いします。

タマゴ：私たちは、安心して生きることのできる未来に住んでみたいんです。安心して、生活ができれば、自由に生きることができます。お互いのことを認め合い、尊重し合うことが大切だと思います。今もこれからも、さらに国籍の違う人とともに生活することが増えると思います。

実際に私の学校でも、中国人と日本人のハーフの人や、韓国から来た人がいます。そこから、国を意識して、発言してしまうことや、その人の内面をしっかりと見ずに言うことがあると思います。

そこで、お互いの違いを理解し合い、さらに他の国の文化を理解し合える機会が増えるといいと思います。私も、他の国の文化にとっても興味があるので、いろいろな人種の人と触れ合えるイベントが欲しいです。



タマゴ：僕は、そのような環境の中で上手に生きていくためには、第一印象というものを強く意識し過ぎないことが大切だと思います。そうすることによって、一人一人の内面をしっかりと見ることができるようになり、お互いうまく関係を保つことができると思います。

タマゴ：その自由があれば、自分の意見や目標が持て、誰かに相談もできたり、安定・安全な生活ができると考えました。例えば、具体例としては、クラスにはほとんど意見を言う人や、静かな人、意見を言わない、言えない人がたくさんいると思います。

タマゴ：けれど、本来、クラスなどで話し合うときは、全員が意見を言い、話し合うことが理想であり、大切だと思います。そして、そういう意見を伝えたりするには、さっき言っていた、認め合ったりする姿勢を見せることで、言えない人も言える環境がつかれると思いました。なので、最終的に、安心して生きることにつながると考えました。

タマゴ：そして、自然や生き物を大切にできる社会になってほしいです。今ある自然を守り、新たに自然の少ない場所に自然を増やしてほしいです。自然は、人間のストレスを癒やしてくれて、自動車の排出ガスの害を和らげてくれるので、人間にとっても、生き物にとっても、なくてはならない存在です。なので、自然の少ない高層ビルの町並みなどに、自然をさらに増やしてほしいと思います。

これらの、大きく分けて、自由平等と、自分と自然、これらをしっかりと意識してまちをつくっていければ、もっと住みやすいまちになると思いました。

終わります。

市長：タマゴさんでいいですか。ありがとうございました。

とても大事なことです。多文化、あるいは国が違う人もいっぱい入ってきています。これは、川崎市も今、約3%は外国籍の方です。いよいよ川崎市は、来年、人口150万人になります。川崎市ができたのは92年前です。その当時、人口4万8,000人でした。ですから、30分の1です、今の人口の。

ですから、川崎市ができたころから、ずっとこの川崎市に住み続けて、川崎生まれ川崎育ちという人よりも、実は、川崎市以外のところから、この川崎市に入ってきた。あるいは、川崎市どころか、海外から川崎に来てという方たちも、たくさんこの川崎には住んでいて、その人たちがみんなが集まって、その力の結集が今、この川崎の発展、150万人にもなる大都市川崎になったんです。

そういう多文化だとか、多国籍だとか、そういうところをみんなの違いを認め合ってきて発展してきたのが、この川崎の歴史。こういうことを、もっともっとこれから大事だというふうに思います。

今、川崎市で、最近、この数年間で増えている外国の方の国別でいうと、ベトナム人とか、インドの方とか、非常に増えています。これからも、もっといろんな国の人たちがこの川崎に、あるいは日本に住むということになるから、そのことを大切に、違いを認め合う。自分の文化を大切にすることと同様に、相手の文化もとても大切にすることが、何よりも大事なことだと思います。

ですから、実は、この会に来る前、僕は着物の会の会合に出ていました。日本の伝統文化ですね。でも、日本の伝統文化を、さあ、僕たちはどれぐらい知っているだろうか。これから4年後、東京オリンピック・パラリンピックが隣の都市で開催されます。でも、この川崎は、イギリスのオリンピックチームが事前キャンプ地として、この川崎にやってきますから、いっぱいイギリス人が来ます。その人たちに、日本の文化を教えられるだろうか。着物、お茶、こういったことを、例えば、こんなことを教えられるかなといったときに、どれぐらい知っているだろうね。

まず、相手のことの文化を大切にするためにも、自分たちの文化、伝統というのをまず知りましょうと、

大切にしましょう。そして、それを各国の人たちにもしっかりとお伝えする。お伝えして、相手の文化も教えてください、そういう寛容と言ったらいいかな、受け入れる、そういった気持ちをみんなで育てていかなくちやいけないというふうに思っています。

自然の話、皆さん、やっぱり自然のことって気になるんですね。日本の国土の6割以上は森林です。今、川崎市に林業を営んでいる方は一人もいらっしゃいません。木材加工所はあります。でも林業に携わっている方は一人もいらっしゃいません。林業に携わるというか、林業をなりわいとしている方はいらっしゃいません。しかし、昨年、森林のない川崎市と、日本一の杉の産地って、どこか知っていますか。ママダッチどうですか。わからない？ 宮崎県です。宮崎県と川崎市が協定を結んで、木材利用をどんどんしていきましようということになりました。なぜかと。森林を守るためです。

日本の森林を守るためには、一回、森に手を入れると、ずっと手入れをしていかなくちやいけません。ですから、杉を守る、杉の木の本を守るということは、切り出して材にしてみんなが使う。そして、また植樹をするという、このサイクルを何十年ものサイクル、五、六十年のサイクルで回していかなくちやいけないんですね。だから、木材利用しない限り、森は死んでいきます。ですから、木材をどんどん利用しましょうと。この森のない、あるいは林業のない川崎市と、宮崎県が手を組むことによって、私たちは150万人都市ですから、ビルを建てる、建物を建てる、木材をもっと使えば、宮崎県の、あるいは日本の、先ほど言ったように6割以上のところは森林ですから、こういった日本の森林を守って、国土を守ることになるんですね。

ですから、森林がないからと諦めることじゃないですね。あるところと、ないところが手を組むことによって日本の自然を守る。だから、川崎市だけのことを考えていると、なかなか難しいことがありますけども、日本全体のことを考えると、僕たちがやれることがたくさんあるんです。ですから、ぜひ、ここにも気づいていただきたいし、一緒に、先ほど言ったとおり、消費行動に変えていく。ママダッチが買わなくても、ママダッチのお父さん、お母さんが買うかもしれないというふうな、そういう消費行動にね、みんなが変わっていくと日本はだんだん変わっていくのかなというふうに思います。

以上です。ありがとうございます。

司会：それでは、次のグループ、準備をお願いいたします。

オムライス：先ほどから何回か出ている話題なんですけど、やっぱり、川崎市というのは、ちょっと他の都市とかに比べて、何か特別ちょっと学力が低いなと思うところがあって、そこが課題だと思いました。学力が低いと、将来就きたい仕事に就けなくなるかもしれないという問題があって、将来そうならないように、子供のうちから集中力などを身につけることが大切であると考えます。そのためにやるべきことをこちらのように四つ考えました。

オムライス：まず最初、お昼寝タイムをつくるということです。お昼寝タイムというのは、お昼休みの後ぐらいに15分から20分の昼寝をすることで、それにより児童の情緒安定と集中力のアップの効果があります。また、小・中学生の約3割が睡眠不足で授業に集中できないという課題があるので、授業に集中できるように、お昼寝タイムを導入する学校が増えてきました。また、生徒の心身の成長を促すとともに、午後の授業への集中力も高め、学力向上を目指そうとしています。

次に、タブレット授業を取り入れるということです。タブレットは、すぐに調べ物をしたり、写真を撮って説明したりできるので便利です。一部の学校では、タブレット授業に取り組んでいます。それを川崎市内の幅広い範囲で行っていくことを提案します。また、インターネットの使い方を子供のうちから理解することで、将来の仕事に役立つかもしれません。

このような理由で、タブレット授業を取り入れることを勧めます。

オムライス：3番目の椅子を引く音を小さくするということなんですけど、よく学校とかで椅子を引くと、がたがたとすごい音がして、何かちょっと、発表とか別のクラスでやっている人とかが、そういう音に邪魔されて、何かこう、うまくいろいろ伝えたりできないと思うし、勉強や授業も、何か集中できなくなってしまうから、そういうふうにしたほうが良いと思います。

また、耳の悪い人がいて、その人が補聴器などをつけていたら、小さな音でも拾ってしまうというのが補聴器の特徴だったりするので、そういうのでさらに耳が刺激されてしまうというところから、やっぱり集中力とかも逃げてしまうんじゃないかなという気がします。なので、その椅子の音を小さくするために、椅子の足にゴムなどのキャップとかをつけて、かぶせる方法があるんじゃないかなと思いました。

4番目なんですけど、意見交流の場を、あえてつくったほうが良いと思います。道徳の授業とかでもあるのかもしれないですけど、もっと増やすことによって、やっぱり将来、僕たちがやっているようなプレゼンをする場というのがあって、そういうところで意見交流の力が備わっていると苦労しないと思うし、相手に伝える練習の一環としても役に立つと思うので、やったほうが良いと思います。

今紹介した四つは、全て学力向上のためにつながることで、私たちが将来生きていくためにも必要なことだと思うので、ぜひ、皆さんもやってみたりしてはいかがでしょうか。

これでオムライスの発表を終わります。

市長：はい。オムライスさん、ありがとうございました。学力向上、みんな学力向上、気になっているんだね。イックン、気になる？ 気になりますか。それは将来が不安なんですか。その、学力がないと将来には生きていけない、仕事にも就けないというふうな、そういう心配ですか。どんな感じ。

オムライス：やりたいことができなくなる。

市長：うーん、それは確かにあるかもしれない、確かに。そういう意味で説得力あるね。

ありがとうございます。お昼寝タイムはびっくりしました。確かにそういうふうな事例を僕も聞いたことがあるけども、お昼寝タイムをやっている川崎市立の学校ってあるんでしょうかね。みんなのところはあるの。ある人。（挙手）

学校の先生、今日来て…、学校の先生ですか？ 違う。あれ、学校の先生はどちらに。

校長先生、川崎市内の学校で、そういう学校って聞いたことがありますか。

校長：聞いたことないです。

市長：ないですか。ちょっと、これは勉強してみたいですね。勉強してみたいというか、お昼寝タイムをやっている自治体が、どういうところがあって、本当に効果が出ているのかというのは、ぜひ調べてみたいし、ね。今、でも授業時間を確保することだけでも、先生方、ひいひい言っている感じだから。でも、いかに効率よく学習するかだもんね。だから勉強するよりも、15分、ぐっと寝て集中したほうが、はるかに覚えやすいと思うね。勉強になると思う。それは当事者の声として、非常に大きな、重く受けとめさせていただきたいと思います。教育委員の皆さんにも、ちょっとその話、今度会ったら話してみたいと思います。

実は、2週間ほど前に、教育長と教育委員さんというのは、教育委員会の皆さんですね、と市長との意見交換会というのが年に何回かあります。その中で、2週間前もそれをやったんです。私と教育長、教育委員の皆さんと意見をした中で、主なテーマは、タブレットの話が大きな話題になりました。

教育委員の皆さんも、ぜひタブレットの授業は、もっと活用していきたいなというふうな、するべきじゃないかという意見が出ていました。で、今の現状だと、各学校にちょっとずつタブレットを入れているということだけでも、もう少し、そうじゃなくて、どんと入れて、まずはその授業の効果というものをしっかりやってみるべきじゃないかというふうな意見があるんで、それはそうだなと僕も思いました。

そのときに発言したんですけれども、例えば、野球やりますと。野球やるんだけど、野球やるためにボールとバット、これだけで野球やってくださいというのと、ちゃんとミットとか全部そろえて、一式そろえて野球やるのとは、全然、野球の質が違いますよね。それと同じように、各2台ずつ、3台ずつ各学校に配付してタブレットの効果を見るよりも、まあ、一式でもう全部そろえた学校がどういうふうな効果があって、どういうところがよくないんだろうというのを研究したほうがいいんじゃないかというふうな、僕も話をしましたし、教育委員の皆さんも、それはそうだねというふうな話になりました。どういうふうにこれから進むかというのは、まだ議論がいろいろありますけども、そういう生徒さんたちの声もあったということを、今度伝えておきたいと思います。

ただ、タブレットが普及すると、いいものと悪いところというのは、当然メリット、デメリットってあると思うんですね。例えば、僕なんかも、とにかく、なかなか自分で書くことがなくなってきました。みんなこういうパソコンでやるから。そうすると、漢字が自分で書けなくなってきましたね。あれ、あの漢字どうやって書くんだっけなというふうなのは、これも能力が衰えている一つですね。パソコンという便利なものができたかわりに、失っている能力というふうなのがあります。

物の考え方、数学は便利かもしれないけど、国語はどうだろう。向き不向きの科目もあるだろうし、どんなものに使っていくのが、本当にタブレットとして使うのがいいのかという。タブレットは、ただの道具ですから、どうやって活かしていくのかという、ここが重要ですね。そのことをしっかりと、教育委員会の皆さんと僕なんかでも議論していきたいなというふうに思っています。

椅子を引く音を小さくする。うん、これはよくわかるな。僕もそういうことを、学校だけでなく思うことがありますね。

意見交換の場をつくる。これはとても大事です。皆さんは、この話を聞いたことがありますかね。アメリカの民主主義のもととなった考え方だというふうに言われておりますけども、アメリカンインディアン、イロコイ族という部族があるんですね。そこの皆さんは、実は物事を決めるときに、村全員で決めます。一番小さい子供から長老まで、全員で物事を決めます。大事なことは全員で決める。そして、徹底的に話し合っ、みんなが一致するまで議論する。

さっきもありましたね。3分の2とかいろいろありましたが、そこのイロコイ族は全員です。全員が一つの方向になるまで議論し尽くすんです。で、何がそこで大事かという、物事を決める最終的な判断はどこにあるかという、7代先の子供たちのことを決めて、今決めることが本当に7代先の子供にとっていいことなのか悪いことなのかということの価値判断で物事を決めていきます。

7代先ってどういう意味かという、例えば、私の子供、その子供というふうに7代先に行くと、私の血というものは完全になくなります。いわゆる科学的に、医学的に、血がどんどん、2分の1とかに分かれていきますよね。7代続くと完全に、ある意味、他人になります。イロコイ族は、そのことを昔から知っているとは思わないけども、でも、科学的にもそういうことなんです。自分の利益と関わらないことを、7代先まで考えて、本当に私たちにとってこの決断が正しいのか正しくないのかと考えて、今いる人たちが責任を持って最後まで決めましょうと。それも話し合いでということなんです。ですから、言う意見も、聞く力も物すごく鍛えられると思います。

こういうことを意見交換の場を、今日のこの場もそうですけども、繰り返していくことが大事です。いろんな場で、学校で、この地域の中で。さっきも言いました。公園の使い方、徹底的に議論しよう。いろんな立場の人たちがたくさんいます。でも、そこをみんなが納得するまで、時間がかかっても、つまり民主主

義の時間というコストです。でも、このことをしっかりと考えて、みんなで議論していくという文化を僕たちがつくっていけば、その次はもっといい社会になるだろうと。その次は、もっと。

僕たちが、皆さんの保護者の皆さん、みんな税金払っているんですね。小学校、中学校と、小学生いるけども、今、1年間に大体どれぐらいの税金が使われているかって知っていますか。

サブチャン、どのぐらい使っていると思う？ 1年間に、小学生。

○サブチャンさん：30万ぐらい。

市長：30万ぐらい。はい。大体3倍ぐらいかかっていますね。約90万行かないぐらい使っています、小学生で。中学生になると、大体100万ぐらい使っています。これ何のためでしょうか。自分たちよりも、自分たちの世代よりも次の世代にいい教育、教育というのは自分たちの学ぶということを身につけてもらって、よりよい社会をつくってもらいたいからです。そのためにみんなが、お父さん、お母さん、あるいは保護者の方たちが税金を出して、その中で学校教育をやっているわけです。つまり、唯一、一つのためです。次の世代を今よりもいい社会をつくるという、そういう目的のためです。ね、こんなにコストがかかっていると、ちょっとびっくりしたでしょ。そういうことなんです。

ちょっと僕はしゃべり過ぎましたね。はい。でも、すごくいい意見いただきました。本当にありがとうございました。

司会：次のグループ、準備をお願いします。

あんぱんまん：私たちは、環境問題についてと、あと、交通について考えました。

まず、この川崎市とか、宮前区にある川について考えました。今、現状、川を見ていると、その現状はお世辞にもきれいとは言えないんですけど、昔と比べても、ちょっと汚くなってしまったんです。あと、私たち中学生や、また小学生などが川と触れ合う場所がない、なくなってしまいました。その原因としては、コンクリートで、川辺というか、川の周辺がコンクリートで固められてしまったことです。また、ごみのポイ捨てなどが多くて、またその川の汚染につながっています。それを、5年後には、今から5年後までには、川でごみ拾いをする取り組みや、または、ごみを減らすということで、3Rの取り組みを強化してほしいと思っています。また、コンクリートで固める部分を少し減らしてもらって、きれいになった川で、私たちが川と関わる、そういう機会が欲しいと思っています。

あんぱんまん：次に、交通です。交通の今の現状は、特にバスなんですけど、バスの本数が少なくて不便になっていたり、自動車が多くて交通渋滞、バスの運賃が高くて、毎日乗るのがちょっと大変という意見が上がりました。なので、私たちが考えたのは、バスの本数を増やしたり、自動車の渋滞を防ぐために、バスを効率よく利用したり、バスの運賃をもう少し安くすれば、バスをたくさん利用できると思いました。

あんぱんまん：今の現状では、近代化とかも進んできて、住みやすいとはいえませんが、もっとよりよく住みやすくなるためには、今、発表したことに取り組んでほしいと思っています。

以上で発表を終わります。

市長：はい。あんぱんまんの皆さん、どうもありがとうございました。

まず、川が汚い、川と触れ合う場所がない、ごみも多いということですね。どこの川だろう、平瀬川かな。どこ、平瀬川？ あ、本当。本当に、平瀬川で活動していただいている市民の皆さんもすごく多くて、すご

くきれいになってきた部分もあるし、今言われたように、ところどころではそういう汚くなっているところというふうなのもあるので、とても残念なことですね。

僕は、多摩川の例を出しますと、私の小さいころというのは、多摩川、すごく汚かったです。あと五、六年上になると、もっと汚かったと思いますけども。本当に泡がばつと飛ぶとかね。多摩川が本当に汚くて、ごみだらけというふうな時代で、とてもじゃないけど、ボートなんかこげないし、近寄るのもちょっと危険なぐらい、やっぱり汚かったという時代です。それが今、多摩川、すごくきれいになってきて、鮎が帰ってきているのって知っていますか。鮎が今、数百万匹帰ってきて、すごいことになっているんです。えってびっくりしますよ。

僕、この前、この前というか、もう三、四年ぐらい前ですかね、多摩川をライフジャケット着て中に入って、東京側に渡るというイベントをやったんですけども、とてもすごくきれいで、多摩川、本当にきれいになってきたなと思います。

毎年5月だったかな、5月か6月に、多摩川美化活動というふうなものをやるんですが、僕も、それこそ小学生のころですけど、多摩川の美化活動、毎年そのころやると、物すごい量のごみが出ました。すさまじい量で、もう、取っても取っても取り切れないから、もう嫌になっちゃうというぐらいすごかったんですが、今年も、僕も多摩川美化活動へ行きましたけど、多摩区から川崎区まで、みんなで一斉にわつと拾っているんですよ、人が出て。で、ほとんどもう宝探し状態です、ごみが。ごみ、あつた、とつたぞーという感じぐらい、本当にごみがないんです。ていうぐらい少なくなってきました。

それは誰がやったのかといたら、市民の力です。何十年もかけて、そこまでやってきた。多摩川がこんだけきれいになったのは、それは、まず一つは、下水の処理というふうなのがしっかりできた。下水道ができたからというのが、これが一番の大きな理由です。だけど、それだけじゃないですね。ごみだとかというふうなのを捨てなくなってきた。また、捨てるでも拾うというふうなのができてきたということによって、多摩川は今、本当に再生してきています。

それと同じような取り組みを、地域のもっと自分たちに身近な川でということをやっつけていかないといけないですよ。そのためには、みんなで、まず自分がというふうなことって大事だと思います。人を変えるのは物すごく大変。だけど、まず自分から変わるという、自分がやるということのほうが早いですよね。そういった活動をみんなでやっつけていこうよというふうなことをやっつけていくと、少しずつごみは減っていくと思います。

もう一つの、コンクリートで囲まれているという、これは確かにそのとおりです。コンクリートで囲ってしまいましたというふうなのは、実はこれ、護岸整備をやっつけていくに当たって、毎年、皆さん、感じている、最近ゲリラ豪雨がすごく多いでしょう。実は年間通してみると、雨量ってそんな変わっていないの、この10年間ぐらい。なんだけど、一気に降るといって、で、一気に雨が終わるといって経験って最近あるでしょう。そんなように、物すごいゲリラ豪雨になったときに、本当に氾濫する可能性というのがすごくあります。なのでコンクリートで固めてきたというふうなもの、これは歴史的にあります。

これを、これからも、やっぱり、まず河川というのは、すごくきれいな、親水性って大事なんだけど、まずは川の怖さというのが現実にはあって、家が、こう、浸水してしまうというふうなこともあるので、そこをしっかりとやっておかなくちゃいけないという部分もあります。

でも、それだけじゃないところがありますね。もう少し親水性を確保したほうがいいなといったところは、例えば、平瀬川の流域の皆さんで協議会つくってやっつけてくださっていますが、それこそ蔵敷の交差点から少し、ちょっと入ったところですね。ああいったところが親水公園、公園というか、こう、歩けるというかです。なっているようなところもあります。あれも、やっぱりコンクリートで昔は囲われていたんです。それをもう一回ちょっと崩して、親水性のある、みんなが川に、平瀬川に親しめるような環境というふうなのを、市民団体の皆さんと私たち市の行政がつくってきたんです。そういったところは、もっと増やしてい

なくちゃいけないなというふうなものと、やっぱり、安全性の部分というのがあるので、実は両方やってい  
かなくちゃ、ちょっといけないなと思っています。

確かに、コンクリートで固めてしまうと、そこにいた魚だとか、その生き物というふうなのが少なくな  
って、自然にもならないので、まあ、ある意味、ますます、何というかな、安全性が見られているんだとい  
う見解もあります。ここは安全性と、やっぱり川に親しんでいこうという両方のバランスだなというふう  
に思いますね。

それから、バス。これから川崎も、この宮前区は川崎市内の7区の中で最も若者の人口が多いところでは  
ありますけども、高齢化も急速にしているところです。特に宮前区は山、坂が多いので、バスの需要とい  
うのは、これからますます増えていきます。で、ますます増えていくんですが、そんなに利用する人たちが増  
えるかという、そうでもない。だけど、バスがないと生活できないということもあるので、どうやってこ  
の人々の足を確保するかというのは、僕たちにとって物すごく大きな課題なんです。

実は、今、麻生区で、バスではなくてタクシーでもって広域交通をやるというモデル実験を今やってい  
るところです。バスほど人は乗らない。バスを走らせてしまうと、物すごく赤字になってしまう。誰が赤字  
を補填するのかといったことになるんですね。ですから、もう少しコンパクトな形で、みんなが便利なよう  
にどういうふうに折り合いをつけたらいいのかなということで、じゃあ、マイクロバスを使えばいいじゃん  
というふうな話もあります。でも、実はマイクロバスは、小回り全くきかない。あれ、小さいから、小回り  
もっときくんだらうなと思ったら、実は大型バスとほとんど変わらない。全く変わらない小回りなんです  
ね。ですから、小さな路地、マイクロバスを走らせればいいじゃんというふうな御意見をいただくんですが、実  
は、あれ全然、用を足さないですね。ですから、そういう細かい道に入っていくためにはどうしたらいい  
のかな。じゃあ、タクシーがあるんじゃないかとか、いろんな知恵を使って、みんなのバスということだけ  
じゃなくて、少しどうやって人々が、こう、生活する上で、外に外出するということが容易にできるかとい  
うことを今、取り組みをやっているところです。これから、そのバス路線をやっぱり少しずつ変えていかな  
くちゃいけないんだと思いますね。そういった、今、研究はしています。

貴重な御意見ありがとうございました。

司会：それでは、いよいよ最後のグループになります。お願いいたします。

たけのこ：これから、たけのこグループの発表を始めます。ちなみにですが、このたけのこという名前の由  
来は、たけのこは、大きくなるとかたくて立派な竹になるので、一人一人が成長する上でいろいろなものを  
吸収しながら立派な人になれたらと思って、このたけのこという名前をつけさせていただきました。

私たち、たけのこグループは、10年後の未来と、明日という現実に近い未来の二つについて考えました。  
それは理想の未来図を描くためには、10年後どうありたいかを考えるべきだし、それを実現するためには、  
今、自分たちに何ができるのかを考える必要があると思ったからです。

たけのこ：まず、10年後について意見をまとめました。その中でも自分編と世間編の二つに分けました。  
自分編は、未来の自分がどんな姿でありたいかをまとめ、世間編は、私たちが住む地域である宮前区や川崎  
市、また日本についてもまとめました。

たけのこ：まず、10年後の自分編です。一つ目は、友達とたくさん遊びたいというところです。最近、  
ラインやツイッターなどのインターネットツールが発達する上で、友達と実際に会って遊ぶことが少なくな  
ってきました。そこで、いろいろな施設を利用して、たくさん遊べたらと思い、この意見にしました。

二つ目は、仕事をする上で徹夜をしたくないということです。これは大人になる上で、しっかりとした企

業を立ち上げてほしいというところでは、最近でも、日本を代表する大企業の中で、働き過ぎで自殺などの事件が起こることもありました。それをもとに、この意見を出させていただきました。

最後に、大学に浪人せずに入りたいということです。これは、自分たちの問題ではありますが、しっかりと勉強する環境を整えることで、大学に浪人せずに進学できるというところでは、

続いては、世間編です。まず、自然を大切にしたいということです。特に森です。森は、たくさんの役割があります。例えば、洪水を防いだり、二酸化炭素を吸収し、酸素を出して大気汚染を解消したりと、たくさんの役割を持っています。そのため、今まで発表した班でも出ましたが、いろいろな方法で自然を大切にしていきたいです。

次に、より多くの人に政治に対して関心を持ってもらいたいというところでは、選挙のときに、選挙の番組を見ると、実際の投票率はとても少ないところに問題を感じます。それでは、住んでいる人たち全員の意見がなかなか通らないというところに問題があるということです。

そこで、多くの人に政治に対して関心を持ってもらい、全員が納得できることは難しいですが、より多くの方が納得できるような政治づくりに貢献できればいいと思いました。

続いては、事故の少ない安全な地域にしていきたいということです。これは、今も既に努力をしていると思いますが、これからもぜひ、この活動を進めていってほしいです。

次に、人工知能に頼らないというところでは、今は、人工知能が発達していて、人間がいなくてもできることが増えてきました。しかし、伝統的なものをつくったりということは、人間でないとできないことなどがたくさんあります。そういうところを改めて見直し、もう一度、人工知能を頼らずに、人間ができることを見つけていきたいです。

最後に、日本の伝統文化を守りながら、外国の長所を取り入れていきたいということです。日本には、たくさんの伝統文化があります。これをまずしっかりと日本人が知って、他に足りないところを外国の長所を取り入れながら補っていけるようにしたいです。

今、発言したことを踏まえて、自分たちがきつと明日からできるということを考えてみました。

まずは、資源を大切にすることです。ただ、森を減らさずにやっていきたいというのは、なかなか難しいことです。ふだん、自分たちが使ってるトイレトペーパーやティッシュ、紙などを大切にすることで、資源を明日から大切にすることができるのではないのでしょうか。

次に、コミュニケーションを大切にできる時間をつくることです。これは学校単位や市単位で進められることではないかと思えます。コミュニケーションを大切にできる時間をつくることで、地域などの結びつきも強くなります。

続いては、人間にしかできないものを知り、尊重することです。先ほども言ったように、まずは自分たちが、どんなものが人間にしかできないものかを知ることが大事です。それを知った上で、それを大切にしていける活動ができればいいと思いました。

次に、お互いを褒め合うことです。お互いを褒め合うことで、自分たちに自信が持てるようになります。それぞれがやっていくことが大事です。

続いて、部活動や今やっていることを一生懸命やることです。10年後、20年後の未来、もちろんかなえたいことはあると思いますが、まずは、今、目の前にあることを一生懸命やるのが未来へつながる一歩ではないかと思えました。

たけのこ：自分たちで思い描いた未来を実現するためには、どのような過程で現実と向き合っていくのかを知ることも考えることも大事だと思えました。未来をつくっていくのは、今の私たちです。自分たちで未来をつくっていくためにも、未来に一番近い明日という時間から考えていきたいと思えます。

これで発表を終わります。



市長：たけのこグループの皆さん、ありがとうございました。

立派でしたね。びっくりしましたね、最後のまとめ。未来に、そして現実を見ながらという話で、明日からできること、こんなにまとまっているって、よくまとまっているなと思います。その割には、意外と、大学は浪人せずに入りたいと、すごくこう、どうなの、イケダさん。これ、この部活動や今やっていることを一生懸命やるということを、日々毎日やっていたら、こんなこと全く気する必要はないと僕は思いますけどね。

大学1年、2年浪人したって、大いしたことはないです。あっ、こんなこと言ったら問題発言になっちゃうね、問題発言になっちゃうかもしれないけど、大したことないです、絶対に。長い人生の中で1年や2年って大したことないです。それよりも、部活動や今やっていることを一生懸命やる、この精神こそ大事ですよ。何事にも一生懸命やる。

お互いを褒め合う。人間にしかできないものを知り、尊重する。どれも本当に教科書に書きたいぐらいのすばらしいことを、日々実践できるかどうかということですね。資源を大切にすることと毎日実践できるかと、これはやっぱり難しいけども、やっていかないといけないということだと思いますね。どれもすばらしい話でした。

より多くの人に政治に対して関心を持ってもらいたい。どれもそうですね。関心を持つ。まず知る。関心を持って、次に知るということ。自分で行動してみて、参加してみる。そういう一つ一つのステップというのがあるので、まず関心を持つということからですよ。いい視点だというふうに思います。

人工知能。未来の話だと思いませんか。実は、川崎市役所では、もう既に人工知能をやってみたくて。子育てに関するアプリを実験的にやってみました。子育てに関していろんな御意見を、御質問を川崎市役所、いただいています。この川崎市役所にいただくのが、これについて人工知能で答えてみようじゃないかという実験をやってみました。というように、現実問題、もう人工知能は、今。未来の話じゃなくて今の話です。実際には、今、民間の企業の中でも人工知能を使っているところというのは実はたくさんあります。このように、どんどん進化していきます。しかし、人工知能が増えたからといって、人間の仕事がなくなるかって、そんなことはありません。

この前、ビッグデータの日本一の、明日もありますけども、日本の権威と言われている先生がいて、その方に、これだけ人工知能が発達してしまうと、仕事なくなっちゃうんじゃないですかという話がありました。そんなことはありませんと、その先生、胸を張って言うておられました。

昔、JRが国鉄だった時代。皆さんはもちろん知らないな。電車に乗るとき、切符を切るのに、こういう切符切る人がいたのを知ってる？ 聞いたことありますか。見たことはないと思うけど、聞いたことある？ こうやって1枚1枚切っていたの。切っていたというか、こう、ね、チケットをこう印つけていたの。こういう人たちが、自動改札になったから要らなくなったの。だけど、仕事がなくなったから、違う仕事が出てきているんですね、どんどん、また新しい。

というように、こういう技術が進む中で仕事がなくなるかって、そんなことはない、どんどん新しい技術が増えてきて、そして、それに伴う人間の能力というのは必ず必要になってくるということなので、それに耐え得るだけの私たちは勉強をしておかないと、こういう心配が出てくると。要するに、浪人は心配じゃないですよ。先ほどの話にもあったように、いわゆる自分も含めてなんですね。仕事の話、就きたい仕事に、あるいは自分がやりたい仕事に就けないかもしれないというふうな話がありましたけれども、そういった自分が望むような仕事に就けないかもしれないという意味では、そのためにやっぱり勉強もしておかないと、選択肢が狭まるという意味では、とても大事なことだというふうに思いますね。

どれも本当にすばらしいことを言っていたので、非の打ちようはありませんけれども、どれも、これは川崎市にとってということと同時に、やっぱり、私たち、みんながそうですね、日本全体としても、これか

ら全部大事なこと、こういうことを明日からやろう、いやいや、今日からやろうという、そういうことが大事だと思います。

もう時間がないので、ここをそのまま僕、まとめの話にしちゃいますけど、実は、大体200年ぐらい前、イギリスの文学者でサミュエル・ジョンソンという人がいました。その人は、一人で英語辞書をつくった人です。9年間かけて、たった一人で英語辞書をつくったんですけども、これが18世紀だからもっと前かな、300年ぐらい前の人なんですけど、以降150年間その辞書、ずっと続けて、世界中で使い続けられる辞書をつくった人なんです。たった一人で。

その人が言うには、どんな偉業も、偉業を達成するのは、元気とか体力じゃないんだと言うんです。持続力、継続力なんだと言うのです。継続力。まさに継続力で、一人で9年間で辞書つくっちゃったという物すごい継続力の持ち主なんですけども、その辞書が150年間、世界中の人たちに使われる。その人が言うには、体力じゃない、継続力なんだというふうな話。

まさに、毎日、今日から明日、明日も明後日もという。さっきの水辺の環境の話もしました。地域環境、地球環境の話もしました。今日だけじゃない、明日も明後日も、毎日やり続けることが大義を生む最大の要件だということなんですね。とても300年前、400年前に言った人とは思えない。今も全く一緒ですよ。毎日、継続力がない限り、今の多摩川のきれいな水はできなかったし、そして、92年前にできたこの川崎市が発展することもなかったんです。それは、みんなの努力ですから。誰が一人ということはないです。みんな、お友達、その先輩、その先輩という人たちが、みんな一人一人の努力で、こういう発展を遂げてきたんです。

さあ、僕たちはもっと、いい社会にするためには、こういった課題があるから、今日から行動に移せるか、そして、その仲間を広げることができるかということです。みんなはわかっている。さあ、同じ学年の友達、どれぐらいわかっているのでしょうか。そこが問題です。ぜひ、一人でも多くの仲間に、こういうこと大事だよねということと一緒に共有して共感してもらって、やっぱり一緒に関心持ってもらって行動しようということにつながられるかが、僕たちにかかっています。

このポスター、いいよね。子供たちが描く夢は、まちの未来になる。これは本当にそうだと僕は思っています。皆さんが考えていることが現実になるか否かは、私たち次第、皆さん次第です。ぜひ、一緒にこれからもみんなが描く夢を、現実のものにしたいというふうに思います。

今日は、本当にいろんな意見を聞かせてもらって、本当にありがとうございました。これから川崎市政の参考にさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。本当は、お時間がありましたら、ちょっと一人、二人質問をと思っていたのですが、ちょっとお時間になりましたので、こちらで終わりにさせていただきたいと思います。ぜひ、本日の話を御家族の方、学校のお友達にお話しただけならなというふうに思います。

それでは、以上をもちまして、第27回区民車座集会のほうを終了させていただきます。